

VI 大 豆

(1) 白 千 石 (十育63号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和17年に、北海道立農業試験場十勝支場において、「裸大豆」を母とし、「早生黒千石」を父として人工交配を行ない、その後選抜固定を図り、昭和27年に「十育63号」として生産力検定試験を行なうとともに地方適否を確かめた結果、優良と認め、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「早生黒千石」と「十勝長葉」の中間に位し、成熟期は「十勝長葉」より7日内外おそく、「早生黒千石」より2～3日早い晩熟種である。
2. 生育がきわめて旺盛で茎はやや太く、長稈である。
3. 倒伏は「早生黒千石」程度で、「十勝長葉」より倒れやすいが、「茶小粒」より倒れにくい。
4. 子実はやや黄色、臍色は褐色で「十勝長葉」よりやや小さいが、「早生黒千石」より大きく、粗蛋白質含量がやや低いが、粗脂肪含量は中位である。
5. 子実収量は「十勝長葉」よりやや劣るが「早生黒千石」に比べていちじるしく多収である。
6. 脱穀後の茎収量は「早生黒千石」、「十勝長葉」より多く、牛馬に与えた場合は稈が柔かいので残食量は比較的少なく、飼料価値が高い。
7. 青刈収量は「茶小粒」、「十勝長葉」とはあまり差がないが、「早生黒千石」、「石狩白1号」よりまさる。

奨 励 範 囲

青刈収量および粗蛋白質生産量が多く、子実収量も多いので、十勝地方として晩熟種であるが、安全に採種ができるので、十勝地方およびこれに類似の地方の青刈大豆として奨励したい。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出 歩 合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	8. 8	10.14	145	111.5	6.2	118	1,976	3,323	725	165	13.5	昭和 年 24～28

(2) 鈴 成 (十育66号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年、北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「中生裸」を父として交配を行ない、それ以後選抜固定をつづけ育成したもので、昭和27年より生産力検定を行ない、昭和29年には「十育66号」という系統名で試験を行ない、昭和30年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」よりややおそいが、結莢期間が短かいので、成熟期は「大谷地2号」程度の早生種である。
2. 草丈はやや低く、耐倒伏性は比較的強い。
3. 蒴莢は密で3粒莢が多く、熟莢は濃黒褐色をていする。
4. 子実はやellow色、臍は褐色で大きさは「十勝長葉」よりやや小さい。
5. マメシクイガの被害が「大谷地2号」よりはるかに少なく、品質は上位である。
6. 子実の粗蛋白質ならびに粗脂肪含量は中位である。
7. 収量は「大谷地2号」より多く、耐冷性が比較的強い。

奨 励 範 囲

「鈴成」は熟期が早く、かつ多収なので、早中熟種栽培地帯向きの品種とし、一応十勝地方における「大谷地2号」、「十勝長葉」の配合用品種として奨励する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出穂 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 kg	千粒 g		
十勝支場	7.28	10.2	134	62.4	6.5	73	1,916	1,699	737	171	16.5	昭和 27~33
北見支場	8.2	9.29	129	62.7	4.1	71	1,315	1,384	726	158	16.3	29~33
天北支場	7.30	10.6	138	50.8	3.9	62	1,598	1,364	741	180	15.8	29~33

(3) イ ス ズ (系83—B)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「大谷地2号」を父として人工交配を行ない、雑種第3代以降北見支場で選抜固定をつづけ育成したもので、昭和28年には生産力検定試験に編入し、昭和29年より各地で地方適否試験を行ない、昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」より3～4日早く結実日数は2日位長い。
2. 成熟期は「大谷地2号」より1～2日早いと同じ位で中生種である。
3. 生育は旺盛、短秆で倒伏には強い。
4. 葉型は「十勝長葉」型で長楕円形である。
5. 着莢は密で3粒莢が多く、4粒莢もやや多い。1莢平均粒数は他の品種よりはるかに多い。莢は「大谷地2号」に類似し小型で褐色である。
6. 子実は黄白色で大きさは「大谷地2号」と「北見長葉」の中間よりやや小さいが、肥沃地では中間より大きくなる。脐は褐色、マメシンクイガの被害は「大谷地2号」と「北見長葉」の中間で品質は良好である。
7. 子実収量は「大谷地2号」や「北見長葉」より多収で耐冷性に強い。

奨 励 範 囲

北海道東北部の如く、冷害にあいやすい地方および山間または秋季結霜の早い地帯の耐冷安全多収品種として栽培するのがよく、栽培の適地帯は網走支庁管内、上川の北部等東北部が主体となるが、さらに中央部の山間地帯にも適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出収 割合	試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重 g	1千粒 重 g		
十勝支場	7.26	10. 3	137	63.0	6.9	62	2,081	1,953	739	224	9.5	昭和 29～33
北見支場	7.30	10. 2	133	70.3	5.0	56	2,019	1,737	674	205	16.7	28～33
天北支場	7.31	10. 6	138	55.8	5.1	51	1,770	1,660	744	200	14.0	29～33

(4) 北 見 白 (系50—A)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年に、北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「大谷地2号」を父として人工交配を行ない第3代以降北見支場で選抜固定をつづけ育成したもので、昭和28年に生産力検定試験に編入し、昭和29年より各地で地方適否試験を行なった結果優良と認めたので、昭和31年3月に優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」よりやや早い、結莢日数が長いので成熟期は「大谷地2号」より2～3日おそい。
2. 生育は旺盛で科はやや短かく、耐倒伏性は強い。
3. 葉型は楕円形、着莢は密で2粒莢が多く褐色である。
4. 子実は黄白色をていし、大きさは「大谷地2号」と「北見長葉」の中間よりやや大きく、臍は褐色で良質である。
5. マメシクイガの被害は「大谷地2号」と「北見長葉」の中間より少なく、品質は「大谷地2号」より上位のときが多い。
6. 子実の粗蛋白ならびに粗脂肪含量は中位であるが、粗蛋白は「北見長葉」よりやや多い。
7. 子実収量は「大谷地2号」、「北見長葉」より多収で、耐冷性に強い。

奨 励 範 囲

栽培の適地帯は上川の北部、十勝、網走支庁管内等の北海道の東北部が主体となるが、さらに中央部の山麓地帯においても良好な収量をあげ得るものと思われる。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		歩合	試験年次
				草丈 cm	枝径数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7.27	10.6	140	64.8	6.6	67	2,188	1,964	730	239	10.0	昭和29～33
北見支場	8.1	10.8	139	72.1	4.4	61	2,195	1,839	722	225	14.9	28～33
天北支場	8.2	10.15	138	60.7	5.9	46	1,869	1,825	732	222	11.5	29～33

(5) カリカチ (大豆農林17号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和25年北海道立農業試験場十勝支場において「十勝長葉」を母とし、「上春在来」を父として人工交配を行ない、それ以来選抜固定を図り、昭和30年より生産力検定試験を行ない、昭和31年より各地で地方適否試験を行ない、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期は「大谷地2号」、「北見白」と同じである。
2. 成熟期は「北見白」並で「大谷地2号」よりわずかにおくれ、中熟種に属する。
3. 草丈は「十勝長葉」より高く、草姿および形態的特性は「大谷地2号」に類するが、初期生育は旺盛で茎葉はやや粗剛である。
4. 葉は楕円形で葉色は褐色を呈する。着莢はやや密で1莢粒数もわずかに多い。
5. 子実はやellowで脐色は黒褐、中粒種に属するが「大谷地2号」より小さく、「北見白」より大きい。
6. マメシンクイガの被害は「大谷地2号」よりわずかに少ない。
7. 子実の粗脂肪含量は「大谷地2号」よりやや高い傾向を示すが大差なく粗蛋白質含量はわずかに少ない。
8. 子実収量は「北見白」並で、小粒種の多収品種に比し遜色がない。

奨 励 範 囲

この品種は道南および極端な冷涼地を除いて全道一円に適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		出喰 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝極数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7.26	10. 4	137	78.3	7.1	65	2,248	2,180	735	269	8.4	昭和 年 30~33
北見支場	7.31	10. 8	—	94.8	4.0	—	2,171	—	—	—	—	32~33
天北支場	7.31	10. 8	—	72.9	4.8	—	2,085	—	—	—	—	32~33
国立農試 作物部	7.21	9.28	—	56.9	8.5	—	1,812	—	—	—	—	32~33

(6) ホツカイハダカ (大豆農林14号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和23年北海道立農業試験場十勝支場において、「十勝長葉」を母とし、「中生裸」を父として交配を行ない、それ以後選抜固定を続け育成したもので、昭和27年には「2701」の仮名称を附し、昭和30年には「十育77号」の系統名の下に試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花期および成熟期は「十勝裸」並の中熟種である。
2. 稈長は「十勝長葉」より短かいが「十勝裸」より長く、茎の太さは中位で耐倒伏性は比較的強い。
3. 葉は長楕円形でやや小さく、毛茸はほとんどない裸種で、花色は紫である。
4. 蒴莢はやや密、1蒴粒数はやや多く莢色は褐色を呈する。
5. 子実 は黄色、臍色は黒褐色、大きさは「十勝長葉」よりやや小さく「十勝裸」よりやや大きい小粒種で、品質は良好である。
6. マメシンクイガの被害は「十勝裸」並で少ない。耐冷性は「十勝裸」なみである。
7. 子実の粗蛋白質ならびに粗脂肪含量は中位である。
8. 子実収量は「大谷地2号」よりやや多く、「十勝裸」よりすぐれている。

奨 励 範 囲

「北海裸」は「十勝裸」に比べ強稈で、収量がまさるので、マメシンクイガの被害が多く、また茎葉徒長し倒伏しやすい地域、主として十勝内陸地帯に適する。裸種は一般に強風低温には弱いので、この品種も沿海地方、高冷地等には栽培を避けるべきである。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		虫喰 歩合	試験年次
				草丈 cm	枝極数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稈重 kg	1立 重 g	千粒 重 g		
十勝支場	7.30	10. 6	140	70. 7	8.6	72	1,862	1,876	745	171	5.2	昭和 27~33
北見支場	8. 8	10.14	143	74. 0	7.0	70	2,017	1,280	713	171	2.2	32

(7)テンポクワセ (天育1号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和25年北海道農業試験場作物部において「紫花1号」を母とし「奥原1号」を父として人工交配を行ない、雑種第4代より北海道立農業試験場天北支場で選抜固定を図り、昭和30年生産力検定予備試験を行ない、昭和31年には生産力検定試験を行なうとともに各地においても地方適否を検定し、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花始ならびに成熟期は「奥原1号」と同程度かやや早い、極早生種である。
2. 葉は楕円形で大きさは「大谷地2号」と同程度である。
3. 着莢は中位で不稔が少なく、莢色は褐色を呈する。
4. 子実は黄白色、脐色は暗褐色、粒形は偏球形で、大きさは「奥原1号」より小さく、「北見白」と同じ位である。
5. マメシクイガの被害は「奥原1号」よりやや少さく、品質は中位である。
6. 子実収量は「奥原1号」より多収で、「大谷地2号」と大差ないが、冷害年にははるかに両品種よりまさる。

奨 励 範 囲

この品種は耐冷性強く、極早生なので無霜期間が短かく、冷害に遭遇しやすい地方に適する。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数 日	成熟期における			ha当り収量		子 実			試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	莢重 kg	1立 重	千粒 重	出歩 歩合	
本 場	7.11	9.12	—	45.7	7.3	56	1,577	—	—	187	—	昭和 年 31~33
十勝支場	7.24	9.27	—	80.8	6.8	59	1,789	—	—	222	6.8	31~33
北見支場	7.27	9.25	—	82.3	7.1	60	2,223	—	—	204	16.7	31~33
根室支場	8. 4	9.30	—	35.1	2.9	26	927	—	—	201	2.7	33
天北支場	7.21	9.25	127	61.4	4.1	53	1,830	1,540	—	222	18.0	30~33

(8) 早 生 緑

来歴ならびに育成経過

昭和26年に北海道立農業試験場北見支場で蒐集した大豆品種中、天塩産のものに緑色大粒種で、有望と思われる品種があつたので、系統選抜試験に入れ、特性ならびに生産力検定を行なうとともに、管内主要地帯で委託試験を行ない、収量も検定したところ、「吉岡大粒」に比べ熟期早く、成績が良好なので、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 開花始は「吉岡大粒」「大谷地2号」と大差ないが、成熟期は「吉岡大粒」より1週間内外早く、「大谷地2号」よりやや早い。
2. 草丈は「吉岡大粒」よりやや低く、「大谷地2号」より20cm くらい低い、莢つきは密である。
3. 子実の表皮は淡緑色で、臍は黒く、臍部附近がやや濃緑を呈するが、「吉岡大粒」のように濃淡はいちぢるしくない。粒形はやや大粒、やや扁球で虫喰被害はやや多いが、品質は良好である。
4. 収量は「吉岡大粒」より3割内外多く、「大谷地2号」と大差がない。

奨 励 範 囲

この品種は北見地方、ならびに冷涼地帯における子実用大豆として「吉岡大粒」に代つて奨励したい。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		虫喰歩合	試験年次
				草丈	枝椶数	莢数	子実重	稈重	1立千粒重	1粒重		
北見支場	月日 7.30	月日 9.29	日 129	cm 57.4	本 5.9	ヶ 57	kg 1,935	kg 1,953	g 715	g 298	% 21.4	昭和 年 26~32 次30, 31

(9) 坂 本 早 生

来歴ならびに育成経過

この品種は亀田郡大野村の坂本重太郎氏が永年栽培していたもので、それ以前は府県からの移入品種と考えられる。北海道立農業試験場渡島支場では

坂本氏の了解を得一般農家に栽培させるために坂本氏の姓を附し、昭和29年2月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. やや小粒であるが薄緑の地に黒のクラカケがあり、食味は良好である。
2. 草丈は短かく 20cm 程度で、3粒莢も多く、分枝に蒴莢が多いので枝のまま食膳にのせるのによい。
3. 生食適期はきわめて早い。

栽 培 適 地

早生であるから適地の範囲は広いが、都市近郊あるいは道南地方の蔬菜地帯に栽培するとよい。

試 験 場 名	枝 豆 適 期	枝 豆 草 丈	5 株 莢 数	試 験 年 次
渡 島 支 場	月日 8. 7	cm 20.3	ヶ 122	昭和26～28年

VII 小 豆

(1) 宝 小 豆

系 歴 ならびに 育 成 経 過

この品種は北海道立農業試験場十勝支場において、「小豆W45」として保存栽培されていたもので、特性調査の結果有望と認めたので、昭和34年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 草丈は中位、熟莢は褐色を呈しやや彎曲する。
2. 開花始は「茶穀早生」および「早生大粒1号」とほぼ同じで、「円葉1号」に比べ5日位早く、成熟期は「茶穀早生」より8日位おそいが、「早生大粒1号」より5日位、「円葉1号」より15日位早い早熟種で、結莢期間が比較的短い。
3. 子実の形状は円筒形で大きさは中位、色沢は赤色、品質は「円葉1号」よりやや劣るが「茶穀早生」よりまさり、早生種としては品質がよい。

4. 収量は「茶汲早生」より2割,「円葉1号」,「早生大粒1号」に比べ1割位多い。

5. 耐倒伏性が強く, 冷害には比較的安全である。

奨励範囲

十勝およびこれに類似の地方に適し, また本道中部の肥沃地ならびに多肥栽培に適すると考えられる。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	枝梗数	莢数	子実重	稈稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	8. 4	10. 1	131	47.1	2.5	35	2,662	1,524	818	151	昭和 31~33
北見支場	8. 4	10. 2	129	57.0	3.7	43	3,409	2,163	803	149	32~33

VII 菜 豆

(1) 大 正 金 時

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和10年中川郡幕別町の中村宇太郎氏が「金時」として帯広市の種苗商から購入したものの中から硬莢種1株を発見し,それが早熟で大粒なことから採種増殖をつづけた。北海道立農業試験場十勝支場では十勝六郡農会を通じて入手し「鶴金時(十支第5990号)」として昭和13年から同17年まで5ヶ年間試験を行なつた。中村氏が農協に出荷したものの中から,昭和16年帯広市大正町上似平の水野利三郎氏が晩霜の被害による再播用種子として購入して播種増殖し,それが大正町全体に漸次普及し,さらに昭和28年頃から他町村にも普及され,昭和30年「大正金時」の銘柄設定とともに十勝管内に広く栽培されるにいたつた。十勝支場では昭和29年より再び試験を行ない,昭和32年3月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 矮性で草丈は「金時」類中最も低く,葉,花,莢等はほぼ「手無鶴金時」に類似するが,成熟前の莢に縫線のほぼ中央部より莢先端部に沿つて極淡紅色の斑紋を生ずる。

2. 開花始は「紅金時」とほぼ同じで、「手無鶴金時」に比べ3日内外早く成熟期は「紅金時」より9日内外、「手無鶴金時」より13日内外早い早熟種である。
3. 子実の形状は「紅金時」に似ているが大粒、色沢は赤紫色に淡い濃淡の斑紋あり、「金時」にやや類似する。
4. 収量は「常富長鶉」、「大手亡」等とほとんど差はないが、「金時」類中では最も多い。
5. 子実の色沢は他の「金時」類に比べ褪せしやすい欠点を持つているが、菜豆炭疽病に対する抵抗性はやや強く、菜豆角斑病には中位の抵抗性を示す。
6. 食味は佳良で「金時」類中最もまさり、「中長鶉」よりもまさる。

奨励範囲

地力の高い土地であれば比較的無霜期間の短い土地にも適し、「手無鶴金時」「紅金時」等に配合して栽培すべき品種である。

試験場名	開花始	成熟期	生育日数	成熟期における			ha当り収量		子実		試験年次
				草丈	枝桠数	莢数	子実重	摘得重	1立重	千粒重	
	月日	月日	日	cm	本	ヶ	kg	kg	g	g	昭和年
十勝支場	7.14	9. 3	103	42.4	5.3	14	1,920	1,447	774	620	30~33
北見支場	7.17	9.10	105	44.0	5.6	15	2,215	1,667	786	714	31~33
根室支場	8. 2	9.23	121	25.8	1.3	5	822	545	779	653	31~32
天北支場	7.14	9. 8	106	38.4	—	14	2,828	1,565	807	731	32~33

(2) 白金時

来歴ならびに育成経過

この品種の来歴は明らかでないが、十勝地方では古くから栽培され、また近年北見地方にも栽培されているもので、それが近年需要の増加とともに品質の統一平均化が強く望まれている。北海道立農業試験場十勝支場では、十勝管内各地より蒐集し比較試験を行なった結果、昭和29年芽室町農業協同組合より取寄せたこの品種を優良と認め、昭和33年3月優良品種に決定した。

特性概要

1. 葉、莢、草姿等の特性はほぼ「紅金時」に類似し、硬莢矮性で花は白色

を呈する。

2. 開花始および熟期ともに「紅金時」とほとんど同じである。
3. 子実の形状はやや長楕円形を呈し、大きさは「紅金時」とほぼ同大、粒色は白色であるがやや鉛色を帯びた網状の斑紋が子実の全面に拡がつており、臍部の周囲に淡黄色の斑紋がある。
4. 収量は「紅金時」とほとんど同程度である。
5. 菜豆炭疽病の被害少なく、菜豆角斑病にも比較的抵抗性を有する。また白色種なるため成熟期から収穫乾燥中に雨湿の害を被りやすい。
6. 子実はやや粘質で品質よく、煮豆、製菓原料あるいは製飴用等に多く用いられ、特に最近「大福」と混合してキントンとしても用いられる。

奨励範囲

「紅金時」の栽培可能な地方には栽培でき、白色種なるため成熟期から収穫乾燥中の雨湿には充分注意しなければならない。また極端な冷害地の栽培は避けるべきである。

試験場名	開花始	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	枝極数	莢数	子実重	稿稈重	1立重	千粒重	
十勝支場	月日 7.16	月日 9.11	日 112	cm 60.5	本 6.2	ヶ 17	kg 1,900	kg 1,635	g 817	g 452	昭和 年 30~33
北見支場	7.19	9.22	117	49.0	5.4	18	2,473	1,948	862	410	31~33
天北支場	7.17	9.24	122	47.3	—	17	2,430	1,995	858	530	32~33

(3) 大 正 白 金 時

来歴ならびに育成経過

この品種は帯広市大正町の農家、道端貞雄氏が、昭和26年に「大正金時」の中から白色同粒形のを発見し増殖したもので、白色大粒良質なところから、昭和32年より大正町農協が採種増殖を行ない、その後大正町を中心として急激にその栽培面積が増加している。

北海道立農業試験場十勝支場では、昭和33年より試験を行なった結果優良と認めたので、昭和35年1月優良品種に決定した。

特 性 概 要

1. 葉、莢、草姿等の特性は「大正金時」に酷似し、ほとんど見分けはつかないが、花色は白色、嫩莖色は緑色を呈する。
2. 開花始および成熟期は「大正金時」とほとんど同じであるが、時によって成熟期は1日位おくれることもある。
3. 子実の形状はやや長い楕円形を呈し、「大正金時」に類似するが、大きさは「大正金時」よりやや小粒、「白金時」よりはるかに大粒である。粒色は白色であるが、ごくわずか「白金時」のような餡色網斑を有し、臍部はごく淡い黄色の環をもつ。
4. 子実収量は「白金時」と同程度であるが、「大正金時」よりやや劣る。
5. 子実はやや粘質で食味は良好である。
6. 成熟期から収穫乾燥期にかけて雨湿の害をうけやすいが、菜豆炭疽病の被害はほとんど認められない。

奨 励 範 囲

この品種の栽培可能範囲は「大正金時」に準じ、地力の高い土地であれば比較的無霜期間の短い地方にも適し、その市場性からみて、「大正金時」、「長鶉」、「大手亡」などに配合して栽培すべき品種である。

試験場名	開花始	成熟期	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈	枝梗数	莢数	子実重	莢重	1立重	千粒重	
十勝支場	月日 7.13	月日 9. 1	日 100	cm 41.3	本 5.0	ヶ 15	kg 1,918	kg 1,604	g 815	g 598	昭和 年 33~34
北見支場	7.13	9. 7	—	40.1	8.9	17	2,244	1,710	817	699	34

IX 豌 豆

(1) 改良青手無 (札幌青手無 1号—40)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和28年北海道立農業試験場十勝支場において、「札幌青手無 1号」より純系分離を行なつて選抜したもので、昭和30年より「札幌青手無 1号—40」の系統名の下に試験を行ない、昭和33年3月優良品種に決定し

た。

特 性 概 要

1. 「改良青手無」は晩熟種であるが、「札幌青手無1号」に比べて開花は1～2日、成熟期は3～4日早い。
2. 草丈は「札幌青手無1号」と同程度で半蔓性種である。分枝数はやや少ない。葉は「札幌青手無1号」より白粉多くやや淡緑色を呈する。着莢は極めて多い。
3. 子実は大粒であるが「札幌青手無1号」より僅かに小さく、種皮の色はやや淡緑色である。収穫当時の雨湿による種皮の変色腐敗粒の発生が比較的少ない。
4. 子実収量は極めて多く、密播、多肥、晩播等の栽培条件の場合には特に「札幌青手無1号」をはるかに凌駕する。

奨 励 範 囲

この品種は熟期が早く極めて多収で、不良条件の下でも比較的減収が少ない上、変質粒、腐敗粒の発生も概して少ないので、従来の青豌豆栽培地帯において、この品種におきかえて奨励したい。

試験場名	開花始 月日	成熟期 月日	生育 日数	成熟期における			ha当り収量		子 実		試験年次
				草丈 cm	枝梗数 本	莢数 ヶ	子実重 kg	稿稈重 kg	1立重 g	千粒重 g	
十勝支場	6.25	8.10	110	116.6	3.9	30	1,927	2,960	723	336	昭和 年
北見支場	6.27	8.10	81	88.0	4.0	51	1,493	1,990	678	280	30～32

X 馬 鈴 薯

(1) チ ト セ (馬鈴薯農林4号)

来歴ならびに育成経過

この品種は昭和20年北海道農業試験場島松馬鈴薯試験地において「男爵薯」を母とし、「本育 393号」を父として交配されたものの中の1系統であつて、旧系統名を「北海3号」とし、昭和26年より各地で地方適否試験を行なつた結果、その優秀性を認められ、昭和28年3月優良品種に決定した。